

登録コード:MH663102 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目（理学・作業）
科目名	発達と教育【理作20MJ以降】 Development and Education		
担当教員	横嶋 敬行		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻・作業療法学専攻／1年 前期 木曜・5時限		
単位数、講義室	2単位	共通教育13講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔
	授業の達成目標		
	MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	「発達」における胎児期から老年期までの各発達段階の特徴や、「教育」における学習や記憶、動機づけ等の知識・技術を修得し、治療や支援に活用できるようになる。
	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	「発達」における胎児期から老年期までの各発達段階の特徴や、「教育」における学習や記憶、動機づけ等の知識・技能も用いて、多様な課題の克服や目標達成のために、自身の考えを述べるができるようになる。
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働、健康長寿、キャリア		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	発達心理学に関する内容では、乳幼児期から老年期までの各発達段階の理論及び具体的な特徴について学び、発達に関する基礎的知識を習得する。教育心理学に関する内容では、学習理論、記憶のメカニズム、動機づけ、集団づくり、学習評価、発達障害に関する知識を、教育実践への応用の観点を含めて学び、子どもたちの主体的な学習活動を支えるための資質・能力を身につける。基本的にパワーポイントのスライドを使った講義形式で進め、授業内容に応じて映像資料やグループワーク等の活動も実施する。また、小課題で提出された受講生のコメントにも触れながら、人の発達や心理、教育についての探求を深める。本授業は、担当教員の学校現場における教員としての実務経験を活かして講義を行う。		
授業計画	第1回（4月9日）：ガイダンス、学校における教育心理学と発達心理学の役割 第2回（4月16日）：発達の理論 第3回（4月23日）：胎児期・乳児期の発達 第4回（5月7日）：幼児期の発達 第5回（5月14日）：児童期の発達 第6回（5月21日）：青年期の発達 第7回（5月28日）：成人期以降の発達 第8回（6月4日）：学習の理論 第9回（6月11日）：学習と記憶 第10回（6月18日）：動機づけ 第11回（6月25日）：学力と知能 第12回（7月2日）：教育評価 第13回（7月9日）：学級集団づくり 第14回（7月16日）：障害の理解①（障害に関する基礎知識） 第15回（7月23日）：障害の理解②（障害観と法律、合理的配慮）、授業アンケート（最後15分で実施） ※最終レポートの提出期限は、第15回の授業から1週間後とする		
授業の進め方	【 履修上の注意 】 ・受講時のルールや注意点は第1回の授業で詳しく説明するので、受講を検討している場合は必ず確認すること。 ・授業の出席は出席確認システムと合わせて、毎授業で別途確認を行う。 ・普段の生活やこれまでの経験を振り返る中で、授業の内容と自身や身の回りの人、社会等を照らし合わせながら、人の発達や心理について探究すること。 【 授業への出席 】 本授業は「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が6回以上になると、授業の達成目標に到達することができないため単位が認定されません。 【 学修の補充 】 「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に掲載されている方法により補充を受けるための申請をおこなってください。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 指定なし（レジュメ等の資料を配布する） 【参考書】 柏崎秀子編著「教職ベーシック 発達・学習の心理学（新版）」北樹出版（2019），ISBN-13: 978-4779305917, 1900円＋税 その他、授業の中で適宜紹介する。		

成績評価の方法	毎授業での小課題やグループワーク等への取り組み・態度（50%），最終レポート（50%）に基づいて，総合的に判断して評価する。
成績評価の基準	毎授業で提出する小課題は以下の観点から3段階で評価を行う。 ①授業の内容や出されたテーマを踏まえた記述となっているか ②自身の考えを述べる事ができているか ③論理的に文章が構成・展開されており，質・量において十分か 上記①～③について，3項目すべてを満たしていれば「かなり上にある」，2項目を満たしていれば「やや上にある」，1項目を満たしていれば「水準にある」。 最終レポートの評価基準は以下のとおりである。 ①授業で学んだことに関連させながら論を展開できているか ②具体的な指導や支援の方法について言及することができているか ③自身の考えや今後の展望を論じることができているか ④論理的に文章が構成・展開されており，質・量において十分か 上記の①～④のうち，すべてを満たしており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」，①～④をすべて満たしていれば「かなり上にある」，3項目を満たしていれば「やや上にある」，2項目を満たしていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	・ 毎回，授業の終わりに次回取り上げるテーマについて小課題等を課すので，取り組んだ上で次回授業の参加すること。事後学習は，授業資料等を活用して復習すること。 ・ 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため，以下のような学習時間を必要とする。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間60時間（4時間×15回）＝ 90時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問・相談は授業前後，面談，メール等で受け付ける。面談を希望する場合は，なるべく事前にメールで希望日時を相談すること（t_yoko@shinshu-u.ac.jp）。